

# 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	コミュニケーション技術	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。</li><li>・援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。</li><li>・利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し、活用できる。</li><li>・状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</li></ul>		
授業の概要	【第3章】コミュニケーション技術 第1節 介護におけるコミュニケーション 第2節 <u>介護におけるコミュニケーション技術</u> 第3節 <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> 第4節 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護I（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	社会の理解 I	形態・時間数	通信・5 時間	
担当者名	野田生子・山本真矢子			
授業の目的ねらい	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。			
授業の概要	<p>【第 2 章】<u>介護保険制度</u>の理解（社会の理解 I）</p> <p>第1 節 <u>介護保険制度創設</u> の背景と目的</p> <p>第2 節 <u>介護保険制度の基礎的理解</u></p> <p>第 3 節 <u>介護保険制度における専門職の役割</u></p>			
使用テキスト	<p>介護福祉士実務者研修テキスト</p> <p>第1 巻人間と社会（発行：中央法規出版）</p>			
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。			

科目	社会の理解 II	形態・時間数	通信・30 時間	
担当者名	野田生子・山本真矢子			
授業の目的ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</li> <li>・社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している</li> <li>・障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割 等を理解し、利用者等に助言できる。</li> <li>・成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</li> </ul>			
授業の概要	<p>[第 3 章] <u>社会のしくみの理解</u>（社会の理解 II）</p> <p>第 1 節 <u>生活と福祉</u></p> <p>第 2 節 <u>社会保障制度</u></p> <p>第 3 節 <u>障害者自立支援制度</u></p> <p>第 4 節 <u>介護実践にかかわる諸制度</u></p>			
使用テキスト	<p>介護福祉士実務者研修テキスト</p> <p>第1 巻人間と社会（発行：中央法規出版）</p>			
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。			

# 授業概要

HAGURUMA介護スクール

科目	介護の基本 I	形態・時間数	通信・10時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。</li> <li>・個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考えを方踏まえ、慈厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</li> <li>・介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第1章】介護福祉士と介護の考え方(介護の基本 I)</p> <p>第1節 <u>介護福祉士制度</u></p> <p>第2節 <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u></p> <p>第3節 <u>介護福祉士の倫理</u></p>		
使用テキスト	<p>介護福祉士実務者研修テキスト</p> <p>第1巻 人間と社会(発行:中央法規出版)</p>		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	介護の基本 II	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</li> <li>・チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。</li> <li>・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。</li> <li>・介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第2章】介護福祉士による介護実践(介護の基本 II)</p> <p>第1節 <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u></p> <p>第2節 <u>介護実践における連携</u></p> <p>第3節 <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u></p> <p>第4節 <u>介護福祉士の安全</u></p>		
使用テキスト	<p>介護福祉士実務者研修テキスト</p> <p>第1巻 人間と社会(発行:中央法規出版)</p>		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	人間の尊厳と自立	形態・時間数	通信・5 時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	人間の尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等介護の基本的な理念を理解する。		
授業の概要	[第1章] 人間の自立と尊厳 第1節 人間の多面的な理解と尊厳 第2節 <u>自立</u> ・自律と支援 第3節 人権と <u>尊厳</u>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第1 巻人間と社会（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。		

# 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	生活支援技術 I	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。</li> <li>・ボディメカニクスを活用した介護の原理を理解し、実施できる。</li> <li>・介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、口腔清潔、家事援助等）を修得している。</li> <li>・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第 4 章】自立に向けた介護の方法（生活支援技術 I）</p> <p>第 1 節 <u>生活支援と ICF</u></p> <p>第 2 節 <u>居住環境の整備と福祉用具の活用</u></p> <p>第 3 節 <u>移動・移乗の介護技術の基本</u></p> <p>第 4 節 <u>食事の介護技術の基本</u></p> <p>第 5 節 <u>入浴・清潔保持の介護技術の基本</u></p> <p>第 6 節 <u>排泄の介護技術の基本</u></p> <p>第 7 節 <u>着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本</u></p> <p>第 8 節 <u>家事援助の基本</u></p>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第 2 巻 介護 I（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。		

科目	生活支援技術 II	形態・時間数	通信・30時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第 5 章】利用者の心身の状況に応じた介護（生活支援技術 II）</p> <p>第 1 節 <u>移動・移乗の介護</u></p> <p>第 2 節 <u>食事の介護</u></p> <p>第 3 節 <u>入浴・清潔保持の介護</u></p>		

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	介護過程 I	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</li> <li>・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</li> <li>・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第1章】 <u>介護過程の基礎的理解</u>（介護過程 I）</p> <p>第1節 <u>介護過程の意義と目的</u></p> <p>第2節 <u>介護過程の展開</u></p> <p>第3節 <u>介護過程とチームアプローチ</u></p>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	介護過程 II	形態・時間数	通信・25時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。		
授業の概要	<p>【第2章】 <u>介護過程の展開の実際</u>（介護過程 II）</p> <p>第1節 介護職による介護過程の進め方</p> <p>第2節 介護過程の実践的展開</p> <p>第3節 施設で暮らす高齢者の介護過程</p> <p>第4節 在宅で暮らす高齢者の介護過程</p>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	介護過程Ⅲ	形態・時間数	スクーリング・45時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。</li> <li>・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護を提供できる。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職他機関との連携を行うことができる。</li> <li>・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</li> </ul>
授業の概要	<p>【第 1 章】<u>介護過程の展開の実践</u>（介護過程Ⅲ）  利用者<span style="font-size: small;">の</span>特性<span style="font-size: small;">に</span>応じた<span style="font-size: small;">介護過程の</span>実践的<span style="font-size: small;">展開</span></p>
使用テキスト	<p>介護福祉士実務者研修テキスト  第 3 卷 介護Ⅱ （発行：中央法規出版）</p>
認定基準	<p>レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。</p>

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	発達と老化の理解 I	形態・時間数	通信・10時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</li> <li>・老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</li> </ul>		
授業の概要	<b>【第1章】 老化に伴うこころとからだの変化（発達と老化の理解 I）</b> 第1節 <u>こころの変化と日常生活への影響</u> 第2節 <u>からだの変化と日常生活への影響</u>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	発達と老化の理解 II	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の定義、発達段階、発達課題について理解している</li> <li>・老年期の発達課題、心理的な課題と支援の留意点について理解している。</li> <li>・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</li> </ul>		
授業の概要	<b>【第2章】 老年期の発達、成熟と健康（発達と老化の理解 II）</b> 第1節 <u>人間の成長・発達</u> 第2節 <u>老年期の発達・成熟と心理</u> 第3節 <u>高齢者に多くみられる症状・疾病等</u>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		



## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	認知症の理解 I	形態・時間数	通信・10時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を解している。</li> <li>・認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している</li> <li>・認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第 3 章】認知症の基礎的理解（認知症の理解 I）</p> <p>第 1 節 <u>認知症ケアの理念と視点</u></p> <p>第 2 節 <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u></p> <p>第 3 節 <u>認知症の人とのかかわり・支援の基本</u></p>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第 4 巻 <u>こころとからだのしくみ</u> （発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。		

科目	認知症の理解 II	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</li> <li>・認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>・地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる</li> </ul>		
授業の概要	<p>【第 4 章】認知症の医学的理解と支援の実際（認知症の理解 II）</p> <p>第 1 節 <u>医学的側面から見た認知症の理解</u></p> <p>第 2 節 <u>認知症の人や察族への支援の実際</u></p>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第 4 巻 <u>こころとからだのしくみ</u> （発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。		

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	障害の理解 I	形態・時間数	通信・10時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</li> <li>・ 障害による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>・ 障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している</li> </ul>		
授業の概要	<b>【第 5 章】障害の基礎的理解（障害の理解 I</b> 第 1 節 <u>障害者福祉の理念</u> 第 2 節 <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u> 第 3 節 <u>障害児・者や室族へのかかわり、支援の基本</u>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	障害の理解 II	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な障害種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</li> <li>・ 障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>・ 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>		
授業の概要	<b>【第 6 章】障害の医学的理解と支援の実際（障害の理解 II）</b> 第 1 節 <u>医学的側面から見た障害の理解</u> 第 2 節 <u>障害児・者への支援の実際</u>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	こころとからだのしくみ I	形態・時間数	通信・20時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。		
授業の概要	<p><b>【第7章】介護に関連するからだのしくみ (こころとからだのしくみ I)</b></p> <p>第1節 <u>移動・移乗に関連するからだのしくみ</u></p> <p>第2節 <u>食事に関連するからだのしくみ</u></p> <p>第3節 <u>入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ</u></p> <p>第4節 <u>排泄に関連するからだのしくみ</u></p> <p>第5節 <u>着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ</u></p> <p>第6節 <u>睡眠に関連するからだのしくみ</u></p>		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ (発行：中央法規出版)		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	こころとからだのしくみ II	形態・時間数	通信・60時間
担当者名	野田生子・山本真矢子		
授業の目的 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している</li> <li>・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。</li> <li>・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</li> </ul>		
授業の概要	<p><b>【第8章】心身の構造・機能と介護における観察のポイント</b></p> <p>第1節 <u>人間の心理</u></p> <p>第2節 <u>人体の構造と機能</u></p> <p>第3節 <u>移動・移乗における観察のポイント</u></p> <p>第4節 <u>食事における観察のポイント</u></p> <p>第5節 <u>入浴・清潔保持における観察のポイント</u></p> <p>第6節 <u>排泄における観察のポイント</u></p> <p>第7節 <u>着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント</u></p> <p>第8節 <u>睡眠における観察のポイント</u></p>		

	第 9 節 終末期における観察のポイント
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第 4 巻 こころとからだのしくみ（発行：中央法規出版）
認定基準	レポートによる評価を行い、70 点以上を合格とする。

## 授業概要

HAGURUMA 実務者研修.net

科目	医療的ケア	形態・時間数	通信・50時間
担当者名			
授業の目的 ねらい	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。		
授業の概要	第1章 医療的ケア実施の基礎 第2章 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		

科目	医療的ケア・演習	形態・時間数	スクーリング・8時間
担当者名			
授業の目的 ねらい	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する		
授業の概要	医療的ケアの種類に応じて、下記のとおり実施する ア. 喀痰吸引 ア) 口腔 5回以上 イ) 鼻腔 5回以上 ウ) 気管カニューレ内部 5回以上 イ. 経管栄養 ア) 胃ろう又は腸ろう 5回以上 イ) 経鼻経管栄養 5回以上 ウ. 救急蘇生法 1回以上		
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア（発行：中央法規出版）		
認定基準	レポートによる評価を行い、70点以上を合格とする。		